

# 内モンゴルにおける生活の変化と美術教育の現状 — ゲルチルソモのフェルトづくりと小学校を事例に —

格 根 薩 仁

## Abstract

Within the rapid modernization, the traditional Mongolian life style in Inner Mongolia has been changing. By result in pursuit of convenience, people are gradually reluctant to make articles with natural materials in traditional ways. Accordingly, the traditional culture and folk customs decline, as well as the interaction relations among people and articles. This will have great impacts on the growth of children, because they can't have the sense of reality without the articles which is made of the natural materials.

Hence, this research will investigate into the changes of the articles' creation methods and its influences on the representation of formative activity in primary art education from the aspects of the representation of mold-making in primary art education. This research will try to put forward the necessity of inserting the regional culture in the Mongolian primary art education.

キーワード……内モンゴル フェルトづくり 伝統文化 美術教育

## 1 研究の背景と目的

中華人民共和国が成立して以来、内モンゴル自治区はモンゴル民族を中心とした地域から漢民族の中心とする多民族の居住地域になっている。それに伴い、民族や地域に固有の生活様式が急速的に変化している。また、生活環境をめぐる各種の物づくりの技術の発展に伴い、生活が便利になった反面、生活文化に内包された物づくりにおける人とモノ、人と人の濃密なかかわり方が失われつつある。それにより、地域における人と人のコミュニケーションのあり方が希薄化し、地域の伝統文化の形成してきた生活文化と価値観が失われつつある。生活環境と生活様式の変化の一方で、モンゴル民族の学校教育では、国民素質教育と技術人材を求めた知識と技術の教育が行われていて、教科書も中国全国でほぼ統一されている。こうした状態の中でモンゴル民族の子ども達に二つの問題が見られている。①子ども達の家庭生活と学校での勉強内容が大ききはずれているため、子ども達が物事に対する考え方、思考方式が混乱し、自己表現をすることが苦手という問題が多く見られる。また、家庭生活と社会

環境の違いによる家庭生活における手伝いや親、家族と一緒にいる時間が少なくなり、家族とのコミュニケーションが希薄化している。②生活環境をめぐる各種の物づくりの技術の発展に伴い、生活が便利になった反面、子ども達が素材を生かして物をつくることや自然の素材に触れ、そこから何かを感じ取ること、またものをつくる過程で何らかの厳しさを感じるといった経験が希薄になっている。子ども達の固定した性格の形成と郷土の愛着や誇りを培いコミュニティを形成し、地域が今後、よりよい生活を営めるようになるためには、学校教育の中で地域に関連した教育内容、または地域の文化を取り入れた教科内容を盛り込み、モンゴル民族の伝統的に形成してきた価値を再発見・再評価すること、民族の伝統文化を理解させ継承していくことが必要と考える。

本論では美術教育のものづくり教育の観点から内モンゴル東部地域におけるゲルチルソモリにおいて、現在まで作られつづけ、使いつづけられているフェルトづくりについて考察する。生活者がどのようにフェルトづくりを行っているのか。また、その中に表れているモンゴル民族の独特な文化とそれに伴う感情、そして生活を営む上で、ものづくりがいかに重要な役割を果たしているのかを考察し、フェルトづくりにおける地域文化の重要性を明確にする。また、現代のゲルチルソモで、フェルトづくりとフェルトの使用方法の変化を調査し、社会変化や生活変化によって伝統的なものづくりがどのように変わってきたのかを示す。さらに、当地域の美術教育のものづくり授業の現状を分析し、その問題点を明らかにする。そして最後に、子ども達の実際の生活に対応した美術教育として、ものづくりにおける教育内容とその可能性や必要性を提言することを目的とする。

## 2 研究方法

本研究は、文献調査と現地調査に基づく。ゲルチルソモの構成とフェルトづくりの製法に関しては、現地調査を基に、地域社会の形成に関する歴史資料とフェルトづくりの製法資料などを参考にした。子ども達の実態と美術教育におけるものづくりの内容の現状に関しては、現地調査と教科書内容を中心に調査を行った。調査の内容として、主に以下の三つの面、①ゲルチルソモの歴史と生活変化 ②フェルトづくりの方法 ③フェルトの使用方向と内包された文化 ④当地域の子ども達の実態 ⑤美術教育におけるものづくり及び鑑賞の内容についての資料を収集した。

## 3 ゲルチルソモの伝統的なフェルトづくりの変容

本節では、ゲルチルソモのフェルトづくりの変容とその背景を説明するため、まず、ゲルチルソモの生活方式の変化について文献調査を行った。さらに、フェルトづくりの変化を詳

しく理解するため、ゲルチルソモで行っていた伝統的なフェルトの使用方法和製法、そこに内包されている文化と風習について文献調査を行った。そして、現在のゲルチルソモにおけるフェルトの使用方向と製法について現地調査を行った。

### 3.1 ゲルチルソモの歴史

ゲルチルソモは(図1)のように内モンゴル中央地域に位置するモンゴル人主体の半牧半農地域である。ゲルチル(家石)という名前をつけたのは、ソモの近くにゲルの形の石山があったためこの名前がつけられたという。モンゴル地域の名前は、ほとんどが、当該地域の山の形などといった自然環境の特徴からつけられているのである。また、山や川、草原の名前は、定居式が始まり、「ソモ」の形成歴史

は100年ほどである。ゲルチルソモは全体で16個の村を管理している。もともとモンゴル人の遊牧地であった土地に人々が集まり、定住し、村落を形成したことには、当時の社会的背景がある。現在に至るまでの地域社会の歩みを把握するために、ゲルチルソモが形成された歴史を記す。

ゲルチルソモにはじめに定住をしたのは、原住民のモンゴル人である。本論文では、1900年代より1947年までを、ゲルチルソモの定住式が形成された時期としておく。当地域の原住民を中心に移住民が増加し、村落が次第に形成されてきた。当時の人々は、冬の宿営地を定住地とし、春夏だけを他の地域で遊牧し、冬の定住地との間を往復しながら、家畜の放牧や、家族の食糧となるキビ<sup>2)</sup>を伝統的なナモゴタリヤ<sup>3)</sup>式で栽培していた。1947年の中国の土地革命により、土地が私有化され、家族ごとに自家用牧地を持つようになり、定住式が全面的な生活方式となった。それまでは、ソモや村の人々に土地の分配はなく、何頭かの家畜が与えられていた。そして、夏と冬の宿営地の間を遊牧する生活を営み、冬の宿営地では、家族の中から何人かが残って、夏の間にはトウモロコシや蕎麦を栽培し、農業を行い始めた。それが今の半牧半農の生活形成に至っている。このような生活様式の変化がフェルトの利用方法の変容をもたらす直接的な背景になったのである。

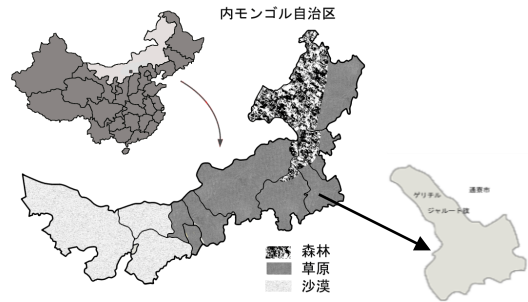


図1：内モンゴル自治区の自然環境の条件地図とジャルツト旗の環境条件地図

### 3.2 ゲルチルソモの伝統的なフェルトづくり製法とそこに内包された文化

牧畜生活とは、基本的に牛、馬、ラクダなどの大型家畜と山羊、羊という小型家畜を組み合わせて放牧しているといえる。内モンゴルの牧畜民の分布の全容を、東から西の方向へ見

ていく場合、(図 1) のように、最も東では、山や森が多いため、狩猟生活に似合った馬、鹿を家畜とする。中央地域では、平原、ゴビ<sup>4)</sup>が多いため、牛、馬、山羊、羊を中心に家畜としている。西の方では、砂漠が多いため、ラクダを中心的に家畜としていた。家畜に依存することによって厳しい自然環境に適応しなければならない。場所によって、自分たちの使いやすい家畜を飼養することもある。昔は、家畜に頼った牧民の生活の道具は全て家畜の体から作られていた。大家畜の糞を乾燥させて燃料として利用するほどに徹底している。また、地域の家畜の違いによって作られていた道具は、さらに地域の特性をもつようになっていった。例えば、牛、馬が生活の中心的な家畜としている中央地域の牧民は、家庭道具を牛の皮や毛など特性を生かして様々な道具を作る等。また、東部の山が多い地域に生活している牧民たちは、一番重要な家畜である鹿の角や毛を生かして生活道具を使っていた。地域の自然環境に適応する牧畜民は、その社会の独自の文化を生み出している。

### 3.2.1 フェルトの使用方法

ゲルチルソモは、内モンゴルの中央地域に位置し、牛、馬、山羊、羊を中心家畜としている。フェルトは羊毛を使ってつくられた敷物用の毛織物のことである。

#### 1) 質材を生かしたものづくり

まず、羊毛で作ったフェルトは、精密に細かく作られているため、風や雨を通さない。また、羊毛の特性である暖かさから、100年前では、遊牧人の日常生活の中で幅広く使われていた素材である。例えば、フェルトをゲル<sup>5)</sup>(家)のカバー、座布団、靴下、馬鞍、家畜の赤ちゃんを入れる袋として使っていた。加えて、フェルトは一回固まると断絶しないので、縄に縫って、紐として様々な場面で使われていた。このように、生活の中では欠かせない重要な素材である。

#### 2) フェルトが内包する意味

フェルトは、牧畜生活の環境から形成され、長い歴史の間でモンゴル人とその家畜の世話に恩恵を与えてくれた素晴らしい素材であることに対する敬意と家畜の体からとった材料に対する愛情の意味で使用されていた。それは、結婚においてフェルトが持つ特別な意味に表われている。結婚する男性と女性の両方の家族は、結婚式前にはかならず新しいフェルトで作った敷物を用意する習慣がある。それは結婚する男性と女性の新しい生活が裕福で幸せになることを祈るという意味が込められている。女性の方の用意したフェルトの座布団は、花嫁を迎えに来た花婿をその上に立たせて新しい服を着せるために使う。花婿が羊毛で作られたフェルトの上に立って新しい服に着替えることで、1000頭のヒツジを持つ裕福な家族になることを祈っているのである。男性の方で用意するフェルトの座布団は、花嫁が初めて家に入るときに、土の上を歩かせずに必ずフェルトの上を歩かせるためのフェルトである。花嫁が花婿の家嫁として入るときにフェルトの上に歩くことによって、花嫁が一生裕福で生活していけることを祈っている。

### 3.2.2 フェルトの製法

フェルトづくりは、一般的に夏の終わりや秋の始まりの時期に行う。羊毛は、羊が夏の暑さにより夏ばてにならないように（図2）夏の前に羊を剪毛し、夏が終わる頃になるとフェルトづくりが始まる。フェルトをつくる製法は以下の四つの手順で行われていた。1. 準備作業。フェルトは、はじめたら終わるまで途中で止まることは出来ないので、必ず風や雨がでない良い天気の日を選ばなければならない。そして、川岸、湖の近く、井戸のある場所、さらに、草が多く平原な場所を選ぶ。2.（図3）羊毛を延ばす作業。（図4）しつとりと水に濡らした牛や馬の皮の上に、昨年のフェルトを敷き、さらにその上に今年の新しい羊毛を平準に延ばす作業である（日本式に言えば布団作りの作業に似ている）。3.（図5）フェルトを巻き起こす作業。子ども達が水を運び、大人は綺麗に延ばした羊毛をしつとり濡らす。水によく浸した後木棒に巻く。そしてその上に、水に浸した牛の皮や馬の皮で羊毛が見えなくなるまで巻く。それから、子ども達が馬に乗ってフェルトを引き転がしながらフェルトを硬くする。両方から引っ張って叩かせることもある。4.（図6）後片付け。フェルトを作り終わったあとは、残ったフェルトを子どもがもらい自分の好きなようにボールなどを作る。最後には小さな宴会を開き、皆で酒を飲みながらユルール<sup>6</sup>を語って仕事を終了する。

#### 1) 共同作業

先に述べたように、フェルトは、昔からの手作りの方法で継承されてきた。フェルトづくりは、多くの人手を使う重労働であり共同作業である。その中で、女の人の行う作業（羊毛を延ばす仕事）、男の人の行う作業（フェルトを巻き起こす作業）、または子ども達の実行作業（馬に乗ってフェルトを引き転がす作業）などを細かく分別して行う。さらにこれは、馬も参加しなければならない共同作業である。近隣の人々に手伝いを求めながら、馬や子ども達まで関わるのである。

#### 2) 風習

フェルトづくりでは、家畜の体から取った素材を利用しているため、素材を生みだしてくれた家畜に対する感謝の気持ちを伝えるための儀礼も行う必要がある。また、フェルトを作る際に多くの人手を必要とされ、必ず決まった時期に行う。遊牧生活を運営している地域とって人々の集まりが難しいという生活条件の中でフェルトをつくることは地域における、風習として、祭りのように行われてきた。風習と儀礼については以下ようになる。

#### 儀礼

遊牧民の長い歴史の中で自然や動物と付き合ってきたことで培われた性格は、自然に対する敬意と動物に対する愛情と物を大切にすることである。それが、フェルトをつくる過程にも反映されている。それは、儀礼により表されている。ここにいう儀礼とは、先輩や上輩に対する礼とは異なる。使う物を生み出した源に対する感謝の気持ちを伝えることと、本体（羊）に悪いものが遷らないことを祈るという意味がある。モンゴルの遊牧生活で家庭用具はほとんどが家畜から作られているので、材料を提供してくれている家畜に対する儀礼が多い。例

えば、搾乳儀礼（馬の搾乳儀礼、ヤギの搾乳儀礼）、皮墊儀礼（皮を完熟して道具をつくる）、去勢儀礼（羊毛を剪ることや食肉のために成長させるためオスの家畜の生殖機能を奪うこと）、家畜を殺すための儀礼、引越しする儀礼など<sup>7)</sup>。



図 2：羊の剪毛。羊毛は鋏で切る。



図 3：羊毛を延ばす仕事。フェルトは神聖なものなので必ず正装で女性が行う。



図 4：延ばした羊毛を濡らす作業。  
必ずその家の主人が始めに濡らす。



図 5：濡らしたフェルトを巻き起こす作業。  
馬や牛の皮に挟むように巻く。



図 6：フェルトを巻いた後、子ども達が馬に乗って両方から引っ張って叩く作業。



図 7：モンゴルの画家の描いた「秋」の一部。  
フェルトづくりの様子。

フェルトをつくる際の儀礼は、羊毛を使っているために羊への感謝の気持ち伝えることと、使っている羊毛の源になる羊が元気でもっと多くなることを祈って、二回行う。まず、作業が始まる前に羊毛を延ばす最初の場所に、乾かした牛糞に火を付けてお寺に使うネズを付けて香りを上げる。そして、隣にモンゴルの特有の食品である乳製品「白いご馳走」<sup>8)</sup>とヨー

グルトにおいて儀礼を行う。そして、礼服を着た女の人が羊毛を延ばし始める。羊毛を延ばし終わった後は、家庭の主人がヨーグルトを羊毛の上に撒く。そして、大人たちが羊を可愛がるようにト、ト、ト>という声を出す。その隣では子ども達が子羊に倣って<メ、メ、メ>と声を出す。その後主婦が、作業をしている皆に「白いご馳走」を食べさせる。そして、次の作業に入る<sup>9)</sup>。

### 祝福「ユルール」祝詞

「モンゴル人は吉祥の祝福で生きる」<sup>10)</sup>という言葉が示すように、厳しい自然環境と付き合い合っているモンゴル人は、どのようなことを行っても必ずユルールを語る。ユルールは、人々に対する感謝の気持ちを伝えることや、相手の将来を祝福すること、また、やっていることに対して無事に完成することなど、その場の状態に合わせて様々な祝詞をつくって語るものである。例えば、結婚式、お正月のお礼、仕事に出る前などの場面で用いられる。

ユルールは、フェルトづくりの作業が始まる前と作業中、作業が終わった後と三回行う。まず、作業開始の儀礼が終わった後、家の主婦が手伝いに来てくれた人々に「白い御馳走」を食べさせ、皆でユルールを語ってから仕事に出る。その一節は次の通りである。「//曇りや雨が降らないよう//吹く風が来ないよう//いつも怒りや喧嘩がないよう//」と、吉祥につくり上げることを祈る。そして、二回目の祝福は二回目の儀礼が終わったあとに行われる。皆で、「白いご馳走」を高く上げて持ちながら良いフェルトを作れるようにユルールを語る。[乗っている馬が止まらないよ//留め紐が断絶しないよ//来られたみんなが疲れないよ]というふうによく作り上げることを祈る。最後は、作業が無事に完成した後、酒や食事の宴会を行う。その宴会の席において、皆でユルールを語る。「六個カベのゲルの覆いとなり//仏様の座布団になり//七十のゲルの覆いとなり//ドライラマの座布団になり//法螺貝のように白くなれ//緞子のような紋になれ//雪のように白くなれ、骨のように硬くなれ」<sup>11)</sup>と祈りのユルールを語った後、みんなで「ユルールが実現されるように」という。このような、いわば晴れの席で語られるユルールは、滔々とよどみなく、数百行にもわたることがある。ユルールは、物事にかかって様々な方向、事と比較や連想して作る物なので幅広く知識にも当たる。

### 3.3 現在のフェルトを使用方向と製法

(3.1) で述べたように現在のゲルチルソモは定住式をとり、半牧半農の生活方式である。家畜だけに依存する生活方式と違って、一つの家庭で、放牧による家畜の運営と農作でカシミアやトウモロコシの生産を行うというような両様の生活を共に運営する生活方式が行われる。また、現在の内モンゴルでは、経済発展による社会体制の変化に応じ、牧畜の生活も様々な対応を行っている。家畜を飼う主な目的は、家畜を市場に出し現金収入を増やすことである。昔のように、自然環境に合わせて家畜の種類を変えることはなく、市場の変化に応じて飼養する家畜の種類を変えることである。ゲルチルソモでは、ヒツジ肉が市場に高値

で売れるため、ヒツジだけを家畜として飼養している家庭が多くなっている。また、現金収入を目的にした牧畜生活では、家庭道具を家畜の体から材料を取ってつくることはなく、全ての道具は現金で市場から購入している。ゲリチルソモの生活形式では、夏には、冬の宿営地で農業を行い、冬の家畜の飼材のために草刈りを行う。また、三つから五つの家庭から一つの家庭が皆の家畜をまとめて遊牧にいかせる様になっている。まとめて家畜を遊牧にいかせた家庭には、家畜の数に応じた月ごとの給料が払われる。農作業においては、市場に高値で売れるトウモロコシや豆類などを栽培し、現金収入を増やしている。市場経済に応じた行動や市場から購入する道具が増えているという側面からみると、彼らの生業が変化し、文化が変容していることは確実である。

### 3.3.1 フェルトの使用方向の現状

(3.3) で述べたように現在のゲリチルソモでは、市場経済の発展と、定住式の生活が基本的な生活形式となっていることを受け、日常生活の中でフェルトの役割も変容している。例えば、定住式の生活により人々がゲル（家）で過ごすことはほとんどなくなり、石や煉瓦で造った固定された平屋に住むようになったために、フェルトのゲルのカバーが使われなくなっている。遊牧している家庭も市場で売っているビニールなどを使うことがほとんどになり、フェルトを使わなくなっている。また、フェルトで作っていた靴下、鞍、家畜の赤ちゃんを入れる袋などは、市場で売っている布で作られた袋や靴下を使っている。

ただし、現在のゲルチルソモの牧民たちの日常生活では活用されていないが、昔から継承されてきた民族の風習に使用するように方向が変化している。(図8)を見ると分かるように現在の牧民たちの中では、フェルトを座布団や家庭の飾り物、玩具、筆袋などの形で扱うところが多くなっている。これらの扱い方の理由はモンゴル民族の昔から継承されてきた風習とフェルトに対する意識と深く関わっている。①座布団は、(3.2.1) で述べたようにモンゴル民族の昔から継承されてきた民族風習の意識で結婚式に使われている。②飾り物や筆袋、玩具などは、遊牧民族の将来の裕福な生活を祈る物として扱われている。例えば、羊毛でつくったフェルトの絵を家の中に飾ることによって、その家の羊がもっと多く増えることを祈っている。また、子ども達にフェルトの筆袋を買ってあげることで、子ども達の成績が優秀になり、将来教師や知識を持つ人になることを願っている。また、フェルトで子どもに玩具をつくってあげることによって、将来子どもが裕福に過せることを祈るなどの意味をもっている。このようにフェルトの使用方法が変容している。



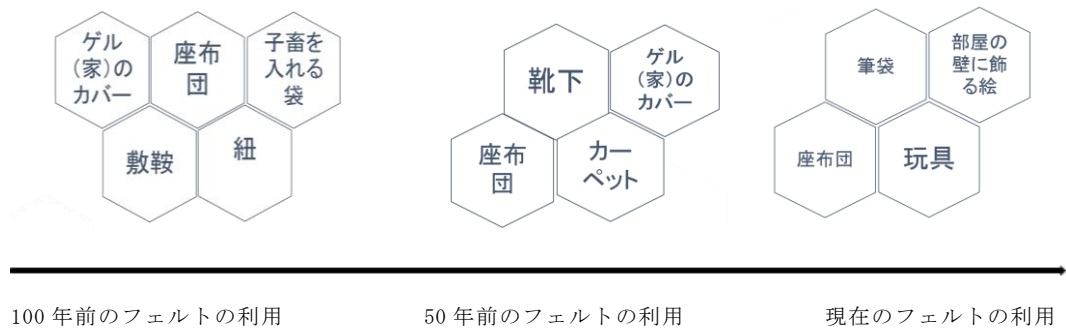


図 8：ゲリテルソモにおけるフェルト利用の変遷

### 3.3.2 現代におけるフェルトづくりの製法

内モンゴルの牧畜生活の中では、手づくりのフェルトは非常に少なくなっている。家庭で扱っているフェルトは、商家が牧民家から買った羊毛を専用の機械で作って商品として市場に売っているものである。手作りのフェルトは夏に遊牧する家庭だけで行われている。夏に遊牧している家庭は、3～5つの家庭の家畜を集めて世話をしているため、家庭道具を手づくりする時間が少なくない。また、村の人々は定住式の生活方式における農業も運営しているため、多くの人手を集めて共同で作業を行うことが出来ない。また、子ども達は、学校の寮で生活しながら教育を受けているため、子ども達の手伝いを求めることも出来ない。このような現状によって、フェルトづくりは家庭の主人や男の人が一人で担当することになっている。昔のようなフェルトづくりの風習として行うことは出来なくなっている。

家庭で作られているフェルトは、小さい形で作られる。例えば、座布団のような形で作られている。製法としては、形を小さくし、昔から継承されてきた伝統的な方法が用いられる(3.2.2を参考)。具体的には以下のように行われている。①準備作業。小さい形のフェルトを家の中でつくる事が出来るため、天気と水のある場所を特に求めない。ただ、羊毛を延ばすための硬い布を敷くだけである。そして、昔から継承されてきた風習をめぐって、羊毛を延ばす始めの場所にお寺で使うネズに火つけてその香りを撒き、ヨーグルトを用意する。②羊毛を延ばす作業。水にしっとり濡らした硬い布の上に羊毛を平準に延ばす作業である(日本式に言えば布団作りの作業に似ている)。③フェルトを巻き起こす作業。羊毛を延ばし終わった後水でしっかり濡らす。そして、木棒に巻く。さらに浸した厚い布で羊毛が見えなくなるまで巻く。そして、馬の後ろに巻いた羊毛を引き転がしながら走ることである。

時代		伝統的なフェルトづくり	現代のフェルトづくり
変化項目			
フェルトの大きさ		一番短いフェルトの長さは、四つの壁を持つゲルの外側から一回りを巻けるような長さになる。(約13m)。一番長いフェルトは、八つの壁を巻けるような長さになる(約26m)。	敷布団の大きさ。(約2m)
作業の規模の変化		近隣の人々の助けをを求める共同作業。	家族の中で父親だけが担当する。
場所の変化		自然条件が要求される。	家の中で行われるため自然条件は無い。
作業における家族の役割		女性は羊毛を延ばす作業を行う。男性はフェルトを水で濡らす作業と巻く作業を行う。子どもは水を運ぶ仕事と馬に乗ってフェルトを引き転がしながら走る作業。	すべての仕事を父親が一人で行う。
文化的意味の内包されている状況	儀礼	作業を始める前と作業中、作業終了後の三回行う。	作業が始まる前に一回だけ行っている。
	祝福「ユール」祝詞	作業が始める前、作業中、作業終了後、三回行う。	行なわれていない。

表1：生活変化に伴うフェルトづくり製法変化の比較

### 3.4 考察

本節では、ゲリチルソモのモンゴル民族の伝統的な道具であるフェルトづくりを対象に、生活者がいかにフェルトづくりを行い、それによって積極的に生活づくりを行ってきたかを考察し、生活変化に伴ってフェルトづくりにもたらされた変化と、それによる文化の変容を調査した。モンゴル民族の伝統的な遊牧生活では、家畜の世話を見ることを中心とした生活形式であり、生活の道具は全て家畜の体から作られていた。大家畜の糞を乾燥させて燃料として利用するほどに徹底している。その一つはフェルトづくりである。昔の生活では、フェルトづくりは材料の質感を生かして道具を作り、生活の道具として幅広く使われ、モンゴル人の生活と家畜の世話において重要な役割を果たしていた。モンゴル人はフェルトづくりの過程でフェルトが素晴らしい道具であることに対する敬意の気持ちと、家畜の体からとった材料に対する愛情を伝えるため、儀礼と祝福することを行っていた。それが、生活や労働における風習として継承され、モンゴルの文化の形成にも関わってきた。しかし、時代と社会の変遷とともに、フェルトが質材として生活の中で使わなくなり、作ることが出来なくなっている。この変遷の本質的な要因は、フェルトの材料が、布に変わったことである。このことは、人々のフェルトに対する敬意と愛情の表現の方式まで変容させている。

内モンゴルでは、遊牧生活から定住式、半農半牧生活の生活方式の変化と経済発展に伴った牧畜の目的の変化によって、人々の自然や生活に対する態度と価値観も変化している。それによってモンゴル民族の伝統的な文化の継承が見えなくなっている。また、経済と技術の発展により生活が便利になった反面、素材と触れ合う体験も希薄化し、自然の素材が生活

に果たしている役割や密接な関連について意識することもなくなっている。

内モンゴル地域には、フェルトづくりのような生活の中で行われ、地域文化を内包したもののづくりや素材が多くあるが、生活変化に伴って伝統的な扱い方や生活の中で果たしていた本質的な役割が変容してきている。それに関わった伝統的で豊かな文化も段々失われつつある。このような現状に適応し、民族の伝統的な文化を次第に継承し、地域の自然材料を生かしたもののづくりは、現在の学校教育の中において無視し切り捨ててしまうべきではないものだと考える。美術教育に焦点を当て、地域材料を活かしたもののづくりの授業題材を取り入れることの可能性を提言することを目的とし、ゲルチルソモの小学校の美術教育におけるものづくり授業内容を調査した。

## 4 図画工作「美術」の現状

本節では、図画工作「美術」<sup>12)</sup>が現代の子ども達の生活実態にどのように対応して教育を行っているかについて考察するため、子ども達の生活実態を調査した上で、図画工作「美術」の造形表現と鑑賞内容について分析を行った。

### 4.1 学校の現状

2000年前はゲルチルソモの管理に含む、16カ村では、各村に小学校が設置していてゲルチル小学校はその一つの学校とされていたが、2000年より小学校の統一が行われ、16カ村の小学校をゲルチルソモに集めて一つの学校にまとめた。学校の紹介によれば、幼稚園、小学校、中学校が一緒になっている学校で、通学している子どもは、753人である。そのうち525人の子ども達と生徒は村から通学しているため、学校の寮で生活している。当地域の約半分の子どもがこの学校に通学している。残りの半分は、中心市や町の学校に通学しているという。学校では、幼稚園が6クラス、小学校は10クラス、中学校は6クラスがある。

### 4.2 子どもの実態

ここでは、子ども達の寮生活と家庭生活が多く違いがあるため分けて調査することとする。

#### 4.2.1 家庭生活

ゲルチル小学校の子ども達のほぼ全員の家族は牧畜及び半牧半農の生活を過している。子ども達は小さいころから家畜の動物との付き合いが多い。例えば、幼稚園に行くまで馬に乗ったり、ヤギの子と遊んだりすることが多い。しかし、幼稚園に入る時点から学校の寮或いは、学校の隣にアパートを借りて母親や祖父母と一緒に暮らすことになる。ゲルチル学校では、10日間授業を行って3日間休むという牧場生活の不便に対応した制度で行っている。つ

まり、子ども達は、冬休みの一ヶ月半と夏休みの一ヶ月半の時間、また半月に三日間家族と一緒に暮らす時間がある。小学校から塾に入る子どもは年に二週間しか家族と一緒にいる時間がなくなっている。このように、牧場の子ども達は、家族と暮らす期間で、生活の体験することが出来、自由に遊ぶ時間がある。家族は定住式の生活方式に多くの家庭が一つの場所に住んでいるため子どもの間で、遊び集団が出来ることが考えられるが人々が多く集まっているため子どもの安全を考え、集団或いはグループで遊ぶことがほとんどない状況である。また、夏休みと冬休みを合わせて3か月の休みがあるが、親も自分自身の持っている知識や生活経験が子どもの未来に役に立つかどうかについて疑問を抱え、子どもたちに家庭での手伝いや家庭で教育することに戸惑いを感じている状態であり、家庭で教えるという感覚が無くなってきている。子ども達は休みの時間で宿題をする、パソコンゲーム、テレビを見ることが進められ、外で遊ぶことや家庭の手伝い時間がすくない状態となっている。このような状況の中で子ども達と親とのコミュニケーションのあり方が希薄化している。

#### 4.2.2 学校の生活

内モンゴルでは、中国全国と同様に義務教育が行われている。ゲルチル小学校の教育も全国と同様に義務教育が行われているが、進学試験に適応し、学習成績の競争が強烈である。子ども達は、優秀な成績を得るため文学や数学など進学試験での成績を求める主要な授業の学習に注目し、逆に、音楽、体育、美術（図画工作）など成績を求めない授業に参加する時間がなくなっている。物づくりなどの子どもの心身の発達に関わる活動はあまり実施されていないため、子ども達が興味を持って行う場所がない。次に子ども達の学校での一日の生活を参観すれば以下ようになる。朝7時から8時まで朝の復習時間、8時から8時30分までは、食堂で朝食、朝の授業は8時40分から11時30分まで行う。昼食は、12時30分まで、そして14時30分まで昼寝し、午後の授業は14時40分から17時30分まで行い、夕食は18時30分まで、19時から20時30分までは夜の復習を行う。週間では、学校から出ることができず学校内で行動することになっている。子ども達の学校の生活は、寮、教室、食堂という三つの場でのサイクルであって、自分の自由な時間はほとんどない。

全体的に見れば、現代の定住式、都市化、生活方式の変化と経済発展とともに人々は自分たちの次世代を都市へ住ませたいと考えるようになった。高学歴志向により、子どもたちを学校教育に任せるようになったため、家族集団、仲間集団の中での生活経験は減少した。少年期における“遊び集団”さえも消し去りつつある。その上、1986年から中国義務教育の政策が始まり、多くの遊牧民の子どもたちは中学校卒業するまでは学校の寮で過しながら教育を受けることになった。親や家事から離れた生活の中では自立能力が身に着くが、実際の家庭生活の状況を一切分からなくなり、共同生活の中で、物を作ることに對して、よく知らなくなっている。こうした子どもは、物づくりに対する意欲がなくなっている。こうした状

況に対して、学校教育、また美術教育の中で子ども達に手を働かせる教育がとても重要とされている。

### 4.3 図画工作「美術」の教科内容の現状

現在の内モンゴルでは、教科書内容を中心教育材料としているため、ここでは、2010 年度に第 8 回目人民美術出版社と内モンゴル出版社が共同出版した教科書 10 冊<sup>13)</sup>について、その内容を具体的に分析する。モンゴル族小学校は 1 年生から 5 年生まで全部で 10 冊（学年ごと上と下の二冊）の教科書を使用している。この 10 冊の中に合計 192 の題材が扱われており、その中で（表 2）「ものづくりと鑑賞」に関する題材はそれぞれ 34 課と 10 課の題材があり、全題材の 16%を占めている。ここでは、ものづくりの材料を中心とした問題点について抽出した。その結果、以下のような特徴・問題点が浮かび上がってきた。

#### 4.3.1 造形表現の“ものづくり”の内容の問題点

##### 1) 紙材の多様と絵画技術の重視

（表 2）から分かるように全学年のものづくりに関する 34 題材の中に紙の材料を使用する題材は 18 もある。紙材はものづくりの題材の中で 70%を占めている。（表 2）の中で見られるように絵の具の中で紙が重要な材料として使われると同時に着色の材料として絵具を取り入れ、絵画的な表現が強調されていることが分かる。例えば、1 年生の教科書第 2 冊の中では、「面白い半円」という題材が設定されているが、この題材の「製作の要求」は「半円の形で切った紙を様々な物や動物に変えるために様々な絵を描いてみましょう」<sup>14)</sup>と記載されている。このように、半円紙を使って様々な物をつくるのではなく絵の具で半円紙に絵を描くという造形活動を示している。この題材はものをつくることに主眼をおいた活動ではなく、描画の構図や組み合わせ方法などの技術が細かく指示されている。同じように（表 2）、四年生の教科書第 7 冊の中では、「歩ける玩具」という題材が設定されており、この題材の「製作の要求」は、「紙を動物や人の形に切り取って、その上に絵の具で動物を描こう」<sup>15)</sup>と記載されている。

##### 2) ものづくりの手順が表示されている

絵画の構図をつくる方法や組み合わせ方などの絵画表現の方法が細かく指示されていて、ものをつくる時の手順やつくり方が具体的に指示されている。例えば:（表 2）と（図 9）4 年生の教科書第 7 冊の中で「漂える玩具」という題材の「製作の要求」には「1cm から 5cm の白い紙を折り重ねて、鋏で口や目、翅、耳を切り取り、切り取った形に動物の絵を描き、形を整える」<sup>16)</sup>と表示されている。また、動物の形にするための設置方法が図版で表示されている。魚、船、亀をつくるための見本や方法を具体的に指示されている。その他にも「跳べる玩具」、「合わせる芸術」、「私が設計した自転車」など、ほとんどの題材には、文字または

図版でつくり方法が細かく記述されている。また、教科書の中で題材とされているものづくりの材料のサイズは小さく、手軽なものばかりで、大きいサイズの材料はほとんど使用されていない。

以上から分かるように、内モンゴルの図画工作科教科書のものづくり教育では、物をつくる基本的な技術と絵を描く技法を教えることを重要視して、子どものアイデアを大事にし、自由な発想を重視するような題材設定が見られなかった。また、材料のサイズは小さく、手軽なものがばかりで、大きいサイズの材料はほとんど使用されていない。身体感覚を十分に発揮できるような材料を用いた立体的な造形活動は子ども達の学びにとって重要なポイントの一つである。材料のサイズが小さければ子どもたちの全身で関わるような立体造形的要素を含んだ造形活動を期待することは難しいと考える。このような限りがある活動の中で子ども達は、自由につくりたい、面白いものを考えたいという意欲を持つことは難しいことであろう。

#### 4.3.2 鑑賞授業の現状と課題

##### 1) 掲載写真が理解し難い

2年生の第3冊（表2）「カラ世界」という題材が設定されているが、掲載されている写真では、建物の形や物の形だけの写真を掲載し、建物の雰囲気とその様々な場所による違う形を表現している環境空間に関わった写真は掲載されていない。例えば、モンゴルゲルだと、ゲルとその周りの草原の雰囲気が入った写真を掲載する必要があると考える。また、「カラ世界」という題材で分かるように子ども達には世界の様々な場所のものを見せて、想像を広げていく必要があると考えられますが、教科書の内容では、「世界はとても美しくて、様々な形や色がある。あなたが見たことがある面白い形や色を話してください」<sup>17)</sup>とだけ記載されている。鑑賞授業の内容にも絵画の技法について鑑賞することを要求されている。

##### 2) 子どもの身近な内容がない

造形表現と設計（デザイン）表現の内容も同様だが内モンゴルで使われている教科書は、中国全国で使われている教科書を使っているため、教科書内容は、中国の大都市を念頭につくられている。そのため、内モンゴルの子どもの実際生活と関わる教科内容はほぼ取り入れられていない。また、中国「教学標準」の「愛国主義道徳教育」の標準に合わせて、中国の中心にある北京や上海など大都市の文化、建物、民間工芸の作品が多く掲載されている。例えば、（表3）（図10）4年生の第8冊の「始皇帝の墓の軍、馬の彫刻」では、中国の漢民族の歴史人物などが掲載されている。「鑑賞要求」では、「中国の歴史人物である秦始皇帝に関する資料を集めてみよう。」<sup>18)</sup>と書かれている。このような内容については子ども達の生活の中で理解できない材料と考える。また、内モンゴル自治区の一部の地域では、授業に使う材料として教科書で規定されている紙粘土やガラス容器、水彩絵の具などは地域の経済の状

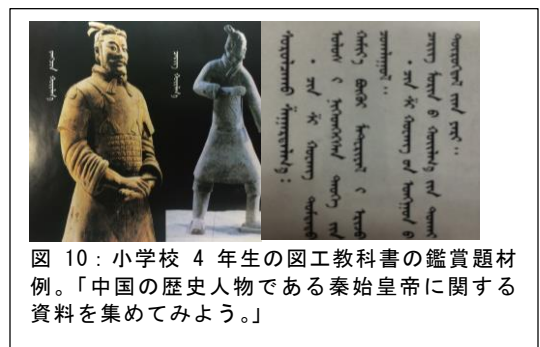
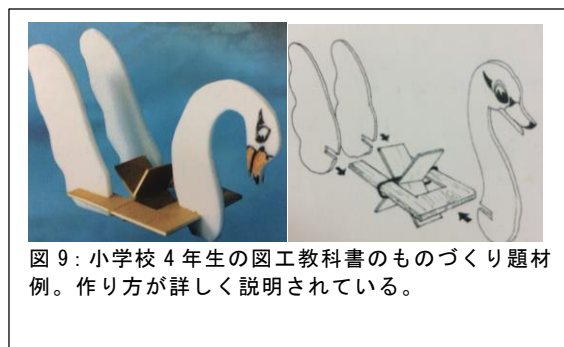
況や、環境によって、手に入れることが難しく、実現が困難なために、立体表現の活動は、ただ教科書で写真を見る鑑賞活動にとどまっている。

学年	題材名	内容	材料	題材数	割合	
一学年	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなでつくる</li> <li>・物語の家</li> <li>・美味しい果物</li> <li>・体育館</li> <li>・冷蔵庫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具をつくろう</li> <li>・ダンボールで家をつくろう</li> <li>・粘土で果物をつくろう</li> <li>・粘土でスポーツする姿をつくろう</li> <li>・ダンボールで冷蔵庫をつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石、プラスチック</li> <li>・ダンボール、色鉛筆</li> <li>・粘土</li> <li>・粘土</li> <li>・ダンボール</li> </ul>	5	25%
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中で遊ぶ</li> <li>・面白い半円</li> <li>・宇宙の植物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪、土で遊ぼう</li> <li>・紙で半円をつくろう</li> <li>・紙で植物をつくる、描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土、雪</li> <li>・紙、色鉛筆</li> <li>・紙、色鉛筆</li> </ul>	3	16%
二学年	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具の舞台</li> <li>・トンボ</li> <li>・回る玩具</li> <li>・面白い色粘土</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色を塗った紙を使おう</li> <li>・折り紙でトンボをつくろう</li> <li>・折り紙で風車をつくろう</li> <li>・粘土で形をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙</li> <li>・折り紙</li> <li>・折り紙</li> <li>・粘土</li> </ul>	4	20%
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孔雀</li> <li>・野菜、果物の形</li> <li>・鳥の家</li> <li>・玩具の家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙で孔雀をつくる、絵に描こう</li> <li>・野菜、果物をつくろう</li> <li>・粘土で鳥の家をつくろう</li> <li>・玩具の家をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色紙、色鉛筆</li> <li>・野菜、果物</li> <li>・粘土、紙</li> <li>・粘土や紙</li> </ul>	4	20%
三学年	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合わせる芸術</li> <li>・梱包したり握ったり</li> <li>・私が設計した自転車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物、動物を描こう</li> <li>・紙粘土を体験しよう</li> <li>・好きな自転車つくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土</li> <li>・紙</li> <li>・紙</li> </ul>	3	16%
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金色の彫刻</li> <li>・毛線の巻き</li> <li>・飛ぶ玩具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や植物の形を造ろう</li> <li>・毛線で様々な作品つくろう</li> <li>・飛ぶ物を考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金紙、銀紙</li> <li>・毛線</li> <li>・紙</li> </ul>	3	16%
四学年	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓から見る景色</li> <li>・夢みたいな空間</li> <li>・紙を結ぼう</li> <li>・歩ける玩具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙で窓を造る</li> <li>・自分の空間を想像しよう</li> <li>・色紙を結んで形にしよう</li> <li>・好きな動物をつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボール、紙</li> <li>・紙</li> <li>・紙</li> <li>・紙</li> </ul>	4	20%
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に</li> <li>・変わった帽子</li> <li>・泳ぐ動物の形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒にの場面をつくろう</li> <li>・好きな帽子をつくろう</li> <li>・海の動物をつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土</li> <li>・紙</li> <li>・紙</li> </ul>	3	16%
五学年	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい彫刻</li> <li>・跳ぶ玩具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北京の古官の彫刻を観察しよう</li> <li>・紙で玩具作ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙</li> <li>・紙</li> </ul>	2	10%
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴のある顔</li> <li>・十二支</li> <li>・光る玩具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の顔を造ろう</li> <li>・十二支の形を覚えよう</li> <li>・不要の紙を使おう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土</li> <li>・紙粘土</li> <li>・紙</li> </ul>	3	16%
全体				34	18%	

表2：内モンゴルの小学校の1学年から5学年までで使われている「美術」（図画工作）の教科書掲載のものづくり題材一覧。小学校は5年間の教育の方式で行われている。

学年	題材目	導入内容	材料	題材数	割合	
一学年	1	・植物、動物の鑑賞	様々な植物、動物の写真	写真	1	4%
	2	・面白い漢字	漢字の形	文字	1	4%
二学年	3	・色とりとりの世界	世界の有名場所の写真	写真	1	4%
	4	・マークを知る	様々なマーク	写真	1	4%
三学年	5	・好きな漫画	漫画の写真	写真	1	4%
	6	・動物	世界にすくない動物	写真	1	4%
四学年	7	・子どもの日の祭り	スポーツ大会	写真	1	4%
	8	・始皇帝の墓の軍人、馬の彫刻	歴史物	写真	1	4%
五学年	9	・伝統的な陶芸	国の博物	写真	1	4%
	10	・昔の陶芸	中国の博物	写真	1	4%
全体				10	4%	

表 3：「美術」（図画工作）の教科書掲載の鑑賞題材一覧。



#### 4.4 考察

本節では、子どものものづくり教育に焦点を当て、ゲルチル小学校の子ども達の家庭生活の環境と学校生活の環境を調査し、子ども達の生活実態の問題点を明らかにした。そして、子ども達の生活実態に対して美術教育のものづくり教育の問題点を調査した。調査結果は以下のようなになる。

ゲルチル小学校の子ども達の家族はほぼ牧場生活をして過ごしているが、この学校の子ども達は家庭から離れて学校に通っているため、家族と一緒にいる時間が少なくなっている。また、夏休みや冬休みの期間で牧場の生活を体験することも出来る。しかし、実際の生活環境に関わった教育を受けていないため、子ども達は牧場の生活また、家庭生活の中でもものを作ったり、自然の材料に辞から自ら触れたり、遊んだりすることが出来なくなっている。このような状態に対して家族や親は、子ども達の教育に対策が必要であることを認識していな



く、学校教育に頼っている状態である。

美術教育の問題点では、内モンゴルのモンゴル民族小学校で使用されている 10 冊の図画工作科におけるものづくりにおける題材の材料の扱い方は、次のように整理できる。紙を主な材料とした「材料の画一性」、紙や絵の具を併せた「絵画的表現」、制作のねらいに決められた通りの作品を制作する「指導目的の画一性」などが見られる。そして、「材料の適切性」、「材料の活性化」、「実現の困難性」も見られる。また、鑑賞題材は、地域の子どもの生活実態から離れた内容の取り扱いが多く、子どもの実態生活と教育とのつながりが見えないという問題点が明らかになった。教科書の中では、子どもたちが材料の感覚を活かしたり、自分の身の周りのものを活かして組み合わせたりするようなものづくりの材料は極めて少ない。

## 5 まとめ

もともと、遊牧生活を運営していたモンゴル民族の生活の中では、フェルトのように生活に密着した自然材料を活かして様々な生活道具が作られていた。また、そうした営みに伴い、長い歴史の中で材料や自然に対する尊敬と生態感覚、動物や物に対する敬意と愛情など民族風習慣、民族や地域の独特な生活文化が伝承されてきたのである。しかし、現在の内モンゴルでは、多民族文化の混交社会、経済発展に伴う生活の変化によって、昔から伝承されてきた民族の文化、生活習慣も失われつつある。また、多様の文化の混交した社会の中で自分たちの伝統文化、生活習慣、生態感覚に対して自信を失いつつある。今後、この地域の人々が、質の高いよりよい生活を営むようになるためには、ものづくりの営為が伝統の中で形成されてきた価値を再発見・再評価し、生かすことが必要だと考えられる。

次に、ゲルチルソモの小学校の子ども達は家庭から離れて学校に通っているため、家族と一緒にいる時間が少なくなっている。また、夏休みや冬休みの期間で牧場の生活を体験することは出来ても実際の生活環境に関わった教育を受けていないため、牧場の生活や興味が少なくなっている。社会の発展により子ども達の生活が便利になった反面、子ども達は自然素材、牧場生活で生み出される自然の素材に対して、自ら触れ合ってもものをつくらうという気持ちがなくなっている。このような生活変化の中では必然的に子ども達の生活習慣の状況に対して学校教育が大きく教育力を担ってくると考える。

教科書の、ものづくりと鑑賞の内容に見られるように、今日の内モンゴルの美術科におけるものづくり教育には内モンゴル各地域に即応した自然の材料を使う教材（カリキュラムの開設）が非常に少ないといえる。しかし、地域の自然の材料を活かした自由なものづくりの学習活動を通じ、ものづくり教育における多様性を保障することができると考える。当地域の特性として、動物の骨や角、皮、毛などの材料が手に入れやすい点がある。児童や生徒は手でこれらの材料に触れ、感じ、考えることによって身近な環境と民族の伝統的生活文化へ

の関心を高めると同時に、創造力を豊かにすることができると考えられる。児童や生徒はこれらの材料を使ってきれいな皮製の飾りものや骨製の花瓶、毛製のおもちゃをつくることも可能であろう。材料を使ったいろいろな制作ができると考えられる。

## <注>

- 1) ソモとは、旗の下属行政名称。中国の漢民族居住地における卿と同じレベル。何個かの村を管理する。
- 2) キビとは、モンゴル主食になる米である。日本の米のようなもの。
- 3) ナモグタリアとは、モンゴル主食になる米を作る田んぼのことである。
- 4) ゴビとは、地面がほとんど小さい石がある地域。
- 5) ゲルとはモンゴルの遊牧民が使っていた移動式の丸形家。ゲルの壁は木で折り畳むように形づくられている。一つのゲルは何個の折り畳み壁をあわせて作られている。内モンゴルでは、4つ壁、6つ壁を持つゲルが多い。
- 6) 祝福の詞を言う。モンゴルでは幅広く使われている。
- 7) 小長谷有紀 『モンゴルの春』、河出書房新社、1991年、pp49
- 8) 白いご馳走とは、乳製品の総合の名称である。乳製品をモンゴルの食べ物の中で一番高級な尊重な食物とする。乳製品色が白いため白いご馳走とする。
- 9) 中国教育部 『モンゴル語教科書』、内蒙古教育出版社、2013年、pp.174
- 10) 阿木尔巴图 『モンゴル美術の研究』、遼寧省民族出版社、2004年、pp.186
- 11) 一ノ瀬恵 『モンゴルに暮らす』、岩波書店、1991年、pp.165
- 12) 内モンゴルでは、「図画工作」を「美術」と言われている。
- 13) 中国教育部 『内蒙古小学校美術教科書 1冊～10冊』、内蒙古教育出版社、2003年
- 14) 中国教育部 『内蒙古小学校美術教科書』、内蒙古教育出版社、2003年、第2冊 pp6
- 15) 中国教育部 『内蒙古小学校美術教科書』、内蒙古教育出版社、2003年、第7冊 pp24
- 16) 中国教育部 『内蒙古小学校美術教科書』、内蒙古教育出版社、2003年、第8冊 pp26
- 17) 中国教育部 『内蒙古小学校美術教科書』、内蒙古教育出版社、2003年、第3冊 pp31
- 18) 中国教育部 『内蒙古小学校美術教科書』、内蒙古教育出版社、2003年、第8冊 pp30

## <参考文献>

- 阿木尔巴图 『モンゴル美術の研究』、遼寧省民族出版社、2004年
- 小長谷有紀 『モンゴル万華鏡』、角川書店、1992年
- 小貫雅男 『牧畜社会の現代』、青木書店、1985年
- 小長谷有紀 『モンゴルの春』、河出書房新社、1991年
- 小長谷有紀 『モンゴル風物誌』、東京書籍株式会社、1992年
- 小長谷有紀 『モンゴル草原の生活世界』、朝日新聞社、1996年
- 一ノ瀬恵 『モンゴルに暮らす』、岩波書店、1991年
- 中国教育部 『課程標準』、中国人民美術出版社、2007年
- 中国教育部 『教学参考用書』、中国人民美術出版社、2007年
- 中国教育部 『モンゴル語教学参考書』、内蒙古教育出版社、2013年

主指導教員（佐藤哲夫教授）、副指導教員（柳沼宏寿教授・伊野義博教授）